

千葉県内に生息するカエル（両生類無尾目）たち
トノサマガエルに似ているカエルは、実は「トウキョウダルマガエル」です

茶色い体に緑の線があるカエルとして呼び慣れた「トノサマガエル」は、実は関東地方には生息していません。県内で、似ているカエルは、「トウキョウダルマガエル」です。

カエルは、谷津田や平野部の水田などの水辺環境が産卵場所や生息地であり、環境変化に影響を受けやすい生物です。カエルは、昆虫類やクモなどを食べますが、一方では、ヘビや鳥類、哺乳類に捕食されるなど、里山の生態系に欠くことのできない生物です。

写真の（英文字）は、千葉県 RDB のカテゴリー 最重要保護生物（A）、重要保護生物（B）、要保護生物（C）、一般保護生物（D）を示しています。 写真の番号（a0***）は、撮影した調査団員の番号です。



トウキョウダルマガエル
(アカガエル科) 日本固有種、**B**
(写真：a0294)

平地の水田や谷津田や池などに生息している。繁殖期は4-7月と長い。水田の減少と圃場整備による乾田化や水路のコンクリート護岸により、生息地の環境が変わり、生息が確認されなくなった地域も多い。



モリアオガエル

(アオガエル科) 日本固有種、**C**
(写真：a0034)

池の水面上に出た枝に、白い泡を作り、産卵する。産卵池がなくなったり、林道整備などで、生息地が分断されて、移動するカエルが車等に轢かれることが多い。県内では房総丘陵で見られ、清澄（鴨川市）のモリアオガエルは、県指定の天然記念物である。



シュレーゲルアオガエル

(アオガエル科) 日本固有種、**D**
(写真：a0512) 卵塊 (写真：a0034)

ニホンアマガエルに似ているが、少し大きく、顔に黒い模様が無いため識別が可能である。水田の畦に、泡に包まれた卵塊を産みつける。樹上性で、水田と雑木林が連続している環境に生息している。(写真の卵塊は、耕作で掘り起こされて水に落ちたもの。)



ニホンアマガエル

(アマガエル科) 日本固有種
(写真：a0261)

水田や住宅地の庭にもいるかわいいカエルで、周囲の色環境に合わせて、体色を緑や灰色に変えることができる。顔を横切る黒い線が、識別ポイントである。

○県内にいる、この他の日本固有種のカエルは、

ツチガエル (A)、ニホンアカガエル (A)、カジカガエル (B)、
タゴガエル (B)、ヤマアカガエル (C)、アズマヒキガエル (C)

○国内の他県／他地域から持ち込まれた、国内移入のカエルは、

トノサマガエル（東京湾埋立地）、ヌマガエル（内房／印旛水系）

○外来種のカエルは、

アフリカツメガエル（要注意外来生物）、ウシガエル（特定外来生物）

ツバメの営巣情報を集めています

「近年、ツバメが少なくなっているのではないかな？営巣している家が減っている。」との声を聞きます。

ツバメは、春に南から日本へ帰って来て、人家の周辺で営巣・子育てをして、家や田畑の周辺で虫を食べてくれる益鳥です。ツバメが少なくなっているとニュースになりました。ツバメは、人家の周辺の自然環境の変化を知ることが出来る、大切な生きものです。

ツバメの減少は、水田などエサ場の減少、巣の材料となる泥が入手困難になった、営巣に適した日本家屋から軒が少ない西洋風家屋が増えた、カラスが増えてヒナを襲う、越冬先や渡り経路での環境変化など、さまざまな原因が重なって起きているようです。

ツバメの現在の営巣状況を知り、今後も毎年の営巣情報を積み上げることで、変化を知ることができ、どのような対策をとればよいのかを考える材料を得ることが出来ます。



営巣中のツバメ (a0285)



親を待つ仔ツバメ (a0261)



巣を見張る親鳥 (a0449)

巣立ちヒナを拾わないでください

「ヒナを拾って保護しましたが、どうしたらよいのでしょうか？」との問い合わせが、鳥の繁殖シーズンに時々あります。野鳥のヒナは巣立ち直後には、まだ十分に飛ぶことも、エサを探すことも未熟です。ヒナは、親鳥が近くにいて見守っており、ヒナへ食べ物を運んだり、安全な場所へ誘導します。そして、巣立ちしてからは、親鳥からヒナが生きて行くことを学ぶ大事な期間です。巣立ちヒナを拾ってしまうと、親鳥から引き離してしまいます。すみやかにその場を立ち去りましょう。地面にヒナが降りていて、犬や猫に襲われるかと心配な場合は、巣を探してヒナを戻すか、茂みの高い場所へそっと移してください。実際に、保護しても、野鳥のヒナは、人の手で育てることが大変難しいのです。また、野鳥は許可無く捕えたり、飼うことは、できません。

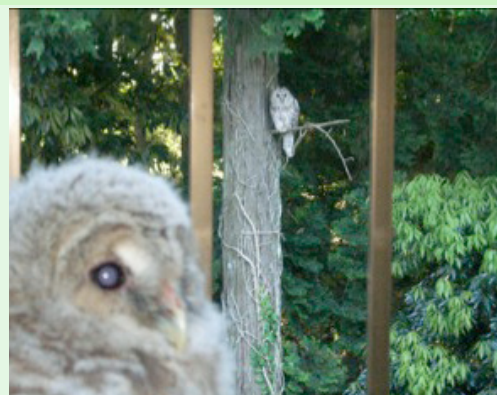
なお、傷病鳥獣の保護については、千葉県自然保護課鳥獣対策室保護管理班電話043-223-2058へお問い合わせください。



ヒヨドリの巣立ちヒナ (a0365)

ヒヨドリやフクロウのヒナは、まだ飛べないうちに巣立ち、親鳥の誘導に従って飛び方やエサの取り方を覚えます。

この時、人は手出しをせずに、離れた場所から双眼鏡で観察するにとめてください。



巣立ちヒナを見守るフクロウ (a0167)

調査団の「現地研修会」は、平成24年6月16日(土)、夷隅川河口の干潟と海岸の生きもの観察です。県立中央博物館の小動物展示室において、天然記念物「ミヤコタナゴ」を展示しています。県立中央博物館の企画展「シカとカモシカ展 日本の野生を生きる」7月7日～9月17日

<5～7月に観察できる生物と季節報告>

ホトギスの初鳴き、ツバメ(営巣)、セッカ、ヤマユリ、ナガサキアゲハ、セミ類の初鳴き、クマゼミ
オオキンケイギク(特定外来生物)

調査対象種以外の外来生物、夏鳥、希少生物の情報を集めています。(※必ず写真を添付願います)